CBI 2001 年大会

医薬品研究の情報計算基盤

会期 ： 2001 年 7 月 25 日（水）－ 27 日（金）
会場 ： 東京　こまばエミナース（東京都目黒区大橋 2-19-5）
実行委員長 ： 石川智久（東京工業大学 生命理工学）

開催の趣旨

21 世紀を迎え、ヒトのゲノム解読に象徴される分子生物学の進歩と IT 革命と呼ばれるコンピュータとインターネット関連技術の進歩は、相乗するように関連する科学や技術を革新している。この流れは、医薬品産業における構造改革の流れと合流し、さらなる奔流となって関係者の意識改革を迫っている。今後日本においては、化学、生物学、情報科学の領域を早急に融合して、創薬に向けた研究基盤を構築することが是非必要である。こうした時代認識の下でこの大会ではメインテーマとして、医薬品研究の情報計算基盤を如何に構築したらよいかを産、官、学それぞれの立場から追求する。

招待講演

「分子認識と結合性の予測」
「ゲノム情報計算」
「創薬と臨床の現場を結ぶ」

イブニングセッション

「バイオベンチャーの戦略と将来」

招待講演者　（４月 10 日現在）

- John Findlay(Univ. Leeds)
- Garland R.Marshall(Washington Univ.)
- Tony Robards(The University of York)
- Stephan Sherry(NCBI/NLM/NIH)
- Arthur Holden(The SNP Consortium)
- Edwin Matthews(USFDA)
- Carol Rohl(Univ. Washington)
- Tom Curran(St. Jude Children's Res. Hosp.)
- 秋山泰(電子技術総合研究所) ・新井賢一(東大医科学研究所 所長) ・宮城島利一(田辺製薬(株))
- 半田宏(東京工業大学ﾌﾛﾝﾃｨｱ創造共同研究ｾﾝﾀｰ) ・長谷川好規(名古屋大学医学部)
- 広野修一(北里大学薬学部) ・乾賢一(京都大学医学部) ・伊藤隆司(金沢大学がん研究所)
- 金子恭規(Zyomyx) ・宮野雅司(理化学研究所播磨研究所) ・宮田満(日経ﾊﾞｲｵﾃｸ(株))
- 大滝義博(ﾊﾞｲｵﾌﾛﾝﾃｨｱﾊﾟｰﾄﾅｰｽﾞ社長) ・寒川光(日本 IBM(株))
- 佐藤文俊(九州工業大学) ・和田昭允(理化学研究所ゲノム科学総合研究センター所長)

ポスターによる研究発表（一般発表）

1．分子計算　2．生体作用の分子認識、QSAR　3．分子生物学における情報計算技術
4．医薬品開発と毒性研究支援システム　5．実験的なスクリーニングデータ解析
6．新しい技術：高次 WWW 応用技術

協賛企業による技術展

演題締め切り：5月 14 日(月)、予稿原稿締切：6月 22 日(金)、事前登録：7月 13 日(金)

募集要項等は WWW（http://www.cbi.or.jp/）をご覧ください。

申込先：〒158-0097　世田谷区用賀 4-3-16　CBI 学会　大会事務局
TEL: 03-5491-5423　FAX: 03-5491-5462　E-mail: cbistaff@cbi.or.jp